

道徳のかけ橋

平成27年12月3日発行
第7号
福島県教育庁
義務教育課

「特別の教科 道徳」



これまで、わかりにくいと指摘されてきた「道徳教育」の目標と「道徳の時間」の目標でしたが、この度の学習指導要領の改正でとてもわかりやすく整理されました。

道徳教育に関すること

「第1章 総則」へ



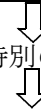
学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童（生徒）の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

※（ ）内は、中学校

道徳科に関すること

「第3章 特別の教科 道徳」へ



第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため**、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。^{*1}

*1 これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではない。（小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P19、同 中学校 P17より）

最終的には、どちらも「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」が目標である

内容について



今まで示していた四つの視点は基本的に引き継ぎますが、内容項目をAからDまでのまとまりで示し、その順序は、児童生徒にとっての対象の広がりによって、今までの「3」と「4」を入れ替えました。

1. 主として自分自身に関すること
2. 主として**他の人**とのかかわりに関すること
3. 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること



- A. 主として自分自身に関すること
- B. 主として**人**との関わりに関すること
- C. 主として集団や社会との関わりに関すること
- D. 主として**生命や**自然、崇高なものとの関わりに関すること

なお、内容項目に記されている番号は、小学校内においても、小学校と中学校においても対応していません。指導案等に記入する場合は、「親切、思いやり」（小学校）や「思いやり、感謝」（中学校）などの、「第2節 内容項目の指導の観点」（学習指導要領解説 特別の教科 道徳編）に付記された**内容を端的に表す言葉**を使用します。

「特別の教科 道徳」Q & A



「特別の教科 道徳」の実施に向け学校ではどんなことを行えばよいのでしょうか。



はい。各学校においては、次の6つのことをお願いします。

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

- ① 学校の道徳教育の目標を明確化
- ② 学校の重点内容項目の明確化と重点内容項目に関わる具体的な指導の機会と時期の明確化
- ③ 学校の道徳教育の全体計画及び別葉の作成
- ④ 道徳の授業の確実な実施
- ⑤ 道徳の授業における児童生徒の学習状況の把握
- ⑥ 家庭や地域社会との連携

道徳の教科化を見すえた授業をするために



道徳の教科化を見すえて授業をするとき、どんなことに気を付ければよいのですか。



授業では、子どもたちが道徳的価値に関わる考え方や感じ方を交流することで自己を見つめ、自己（人間として）*2の生き方についての考えを深めることが大切です。

*2 ()内は、中学校

そのためには、教師と子どもたちの信頼関係や子どもたち相互の人間関係を育て、一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でつくるのが大切です。そこで、今回は、10月に行われた福島県小学校教育研究協議会での授業を紹介します。

平成27年度 福島県小学校教育研究協議会
道徳研究部会 福島地区大会
福島市立森合小学校1年1組
菅野朱美先生の授業から見てきたこと

- ◆ 主題名 相手の気持ち 親切、思いやり
- ◆ 教材名 にじいろのさかな ～しましまをたすける～

(マーカス・フィスター作 『にじいろのさかな』講談社)



授業が始まる前から、1年1組の教室には、子どもたちの明るい笑顔と元気な声があふれていました。とは言っても騒々しさは全くなく、これから学びに向かうという学習の構えがしっかりとできていたのです。

授業の始めから終わりまで、子どもたちは自分の考えを自分の言葉で表現していました。次から次へと手が挙がり、一人一人がそれぞれ違った表現で、自分の考えを、友達と先生に一生懸命伝えていました。話している友達の顔を見ながら話を聞いている子が多く、発言はどんどんつながっていきました。

その間、菅野先生は、子どもたちに温かいまなざしを向け、終始笑顔で子どもたちの声を受けとめていました。なんでも言える安心感、受容し認めてもらえる喜び、自分の考えを聞いてそれにしっかり応えてくれる友達。

授業は学級経営と深く関わっており、教師と子どもたちそれぞれの信頼関係に基づく温かい人間関係が基盤になること、そしてこのことが心の交流につながり指導の効果を発揮することを再確認した45分でした。